

# 船の郵便展

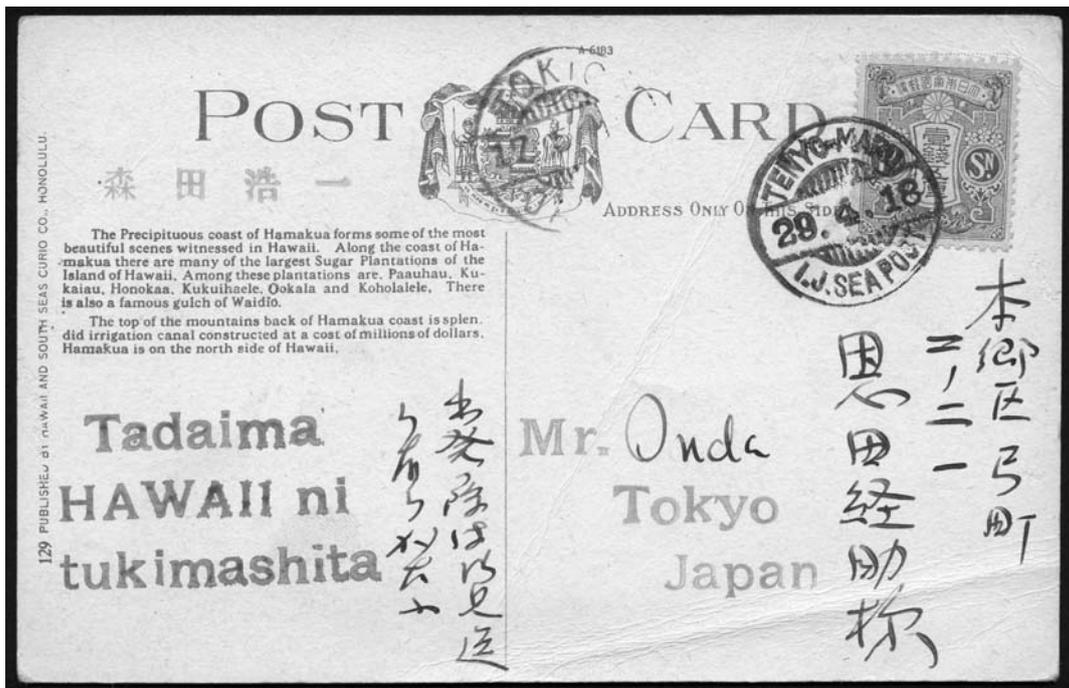


# 切手の博物館 スペース1・2

展示案内 No. 36

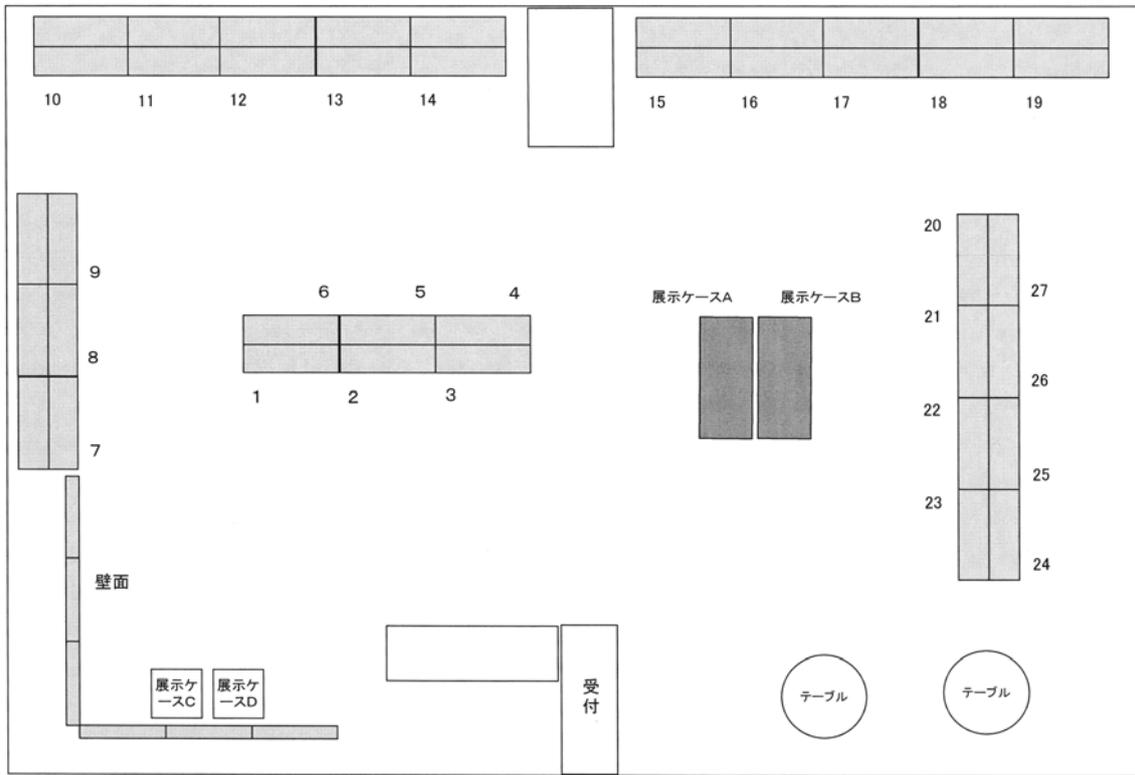
## 船の郵便展

2007. 10. 25. ~ 11. 4.



天洋丸の船内郵便局(1910~30年)が取り扱った絵はがき  
1918年4月29日 東京宛て \*原寸大  
谷信勝コレクションより

＝会場配置＝



＝展示コレクション一覧＝

- フレームNo. 1～6 日本の客船とその船内郵便 谷信勝コレクション…………… 3 ページ
- フレームNo. 7～9 郵便物を運んだ船 山口純一コレクション…………… 4 ページ
- フレームNo.10～12 北米航路と日本の船内郵便局 小坂彰宏コレクション…………… 5 ページ
- フレームNo.13 戦後の外国航路船内郵便局 小坂彰宏コレクション…………… 6 ページ
- フレームNo.14 船旅の想いを送る 小坂彰宏コレクション…………… 6 ページ
- フレームNo.15～19 1843年英仏郵便交換条約による外国郵便 1 スエズ以东 (3)モーリシャス  
(4)インド (5)オセアニア、その他の地域 村岡安廣コレクション…………… 7 ページ
- フレームNo.20～27 スウェーデン周辺の船舶郵便 志垣雅文コレクション…………… 8 ページ
- 展示ケースA～B 日本郵船の客船で用いられた食器類 秋吉誠二郎コレクション…………… 9 ページ
- 展示ケースC 浅間丸に乗船の外国人による旅のスクラップブック 小坂彰宏コレクション…10ページ
- 展示ケースD 郵便物を運んだ青函連絡船 羊蹄丸の航海日誌 船の科学館所蔵……………10ページ
- 壁面 船内郵便局が開設された客船とその郵便局の写真 日本郵船歴史博物館所蔵…11ページ

※ページ数は展示案内掲載頁

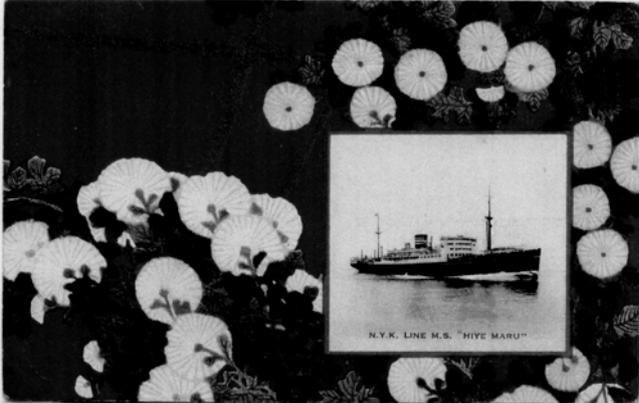
## 日本の客船とその船内郵便 谷信勝コレクション

谷氏は1920年生まれで、若い頃から“船と船内郵便”に着目して、切手収集を楽しまれてきました。その集大成としての著作『日本の客船とその船内郵便』は、2006年までに5巻が刊行されています。本コレクションは、日本の外国航路の船内郵便をまとめた第1巻(1999年)から、船舶の絵はがきと船内郵便局のカバー(実際の郵便物)を抜粋したものです。

⑩<日枝丸> HIYE-MARU NYK・沙市線

竣工: 昭5(1930)7月・横浜  
終末: 昭18(1943)11月・沈没(ラバウル沖で雷撃により)

総トン数: 11,600t 全長: 163m 巾: 20m 最高速度: 18kt 航海速度: 16kt  
船客定員: 1等 76名 2等 69名 3等 186名  
コメント: 氷川丸型の2番船、同型船平安丸 昭13 HIE-MARU と改称



N.Y.K. LINE M.S. "HIYE MARU"

<船内郵便局>

開局:  
I. J. 26. 8. 1930  
(告示第1999号)  
NIP 7. 6. 1934  
(告示第 929号)

風景印  
IJ 16. 6. 1932  
(告示第 966号)  
NIP 7. 6. 1934  
(告示第 929号)

改称: ⑩HIE-MARUと改称(1938)



22

※今回の展示は、著作頁(上図 \*60%縮小)に実物を示し、切手の博物館で再構成しました。

## 郵便物を運んだ船 山口純一コレクション

映画「タイタニック」を覚えていますか？タイタニック号は乗客を乗せた豪華客船ですが、郵便物を運んだ船でもあります。切手をよく見てください。R. M. S. TITANICとあるでしょう。船名の前にR.M.S.とあるのはROYAL MAIL SHIP(ロイヤル・メール・シップ 図1)の略号です。イギリス郵政と郵便輸送を契約した船だけが、つけることができます。ほかにも、このR. M. S.をつけた船がたくさんあります。この船にも、とびっくりする船があるかもしれません。

船が郵便局を持っている場合があります。その郵便局の消印を船内印と言います。ここでは欧米の船内印郵便物を見ることができます。特にアメリカは、ヨーロッパの国々と共同で、船内郵便局を設置しています。その中から、US GERMAN SEA POST(アメリカ・ドイツ船内郵便局)とUS FRANCE SEA POST(アメリカ・フランス船内郵便局)の郵便物を展示してあります。

飛行機がまだ、大西洋を横断できる能力がなかった時代。船が入港する前に、郵便物を半日

でも早く届けるために、船に飛行機を発進させる機械(カタパルト)をつけて、飛行機を飛ばして郵便物を運んだことがあります。これをカタパルト郵便と呼んでいます。フランスとドイツの郵便物が有名です。フランスが最初に実施した時、必要な切手が足りなくなり、臨時にカタパルト郵便のために切手を加刷しています。この加刷切手を使用したカタパルト郵便は、世界的に人気があります。加刷切手は2種類あり、ここではその1通を見ることができます(図2)。

岩場で囲まれた島には、船が近づけません。そのため郵便物を缶に入れ、泳いだりカヌーを使ったりして、郵便物を船から受け取り、逆に船へ郵便物を届けたりしたことがあります。トンガにあるニウアフォウ島で使用した郵便物は、ティン・キャン・メールと呼ばれて人気を集めています。この郵便物が日本にも届いています。展示してある郵便物の受取人は、横浜に住んでいたカール・ルイスという方で、切手の世界では、日本の初日カバーを作成して著名です。

では、帆船時代からの郵便物を運んだ船の数々をご覧ください。

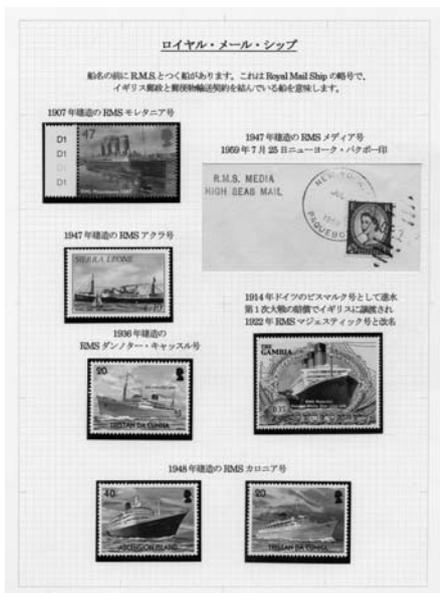


図 1

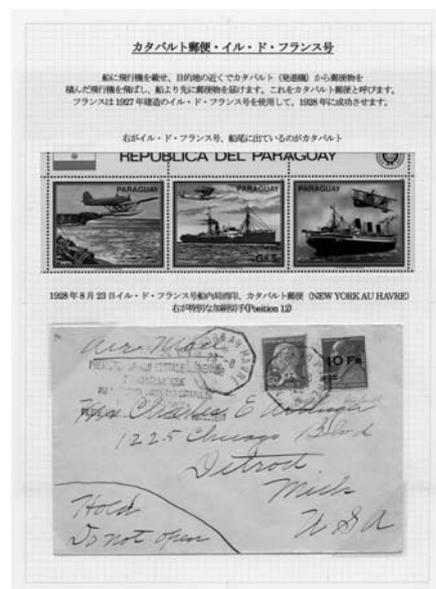


図 2

# 北米航路と日本の船内郵便局

小坂彰宏コレクション

極東～北米間の郵便は19世紀後半に始まり、米国西海岸で太平洋航路と大陸横断鉄道とが連結する一貫輸送で運ばれました。最初に定期航路を開設したのはアメリカのパシフィック・メール社で、1867(慶応3)年1月のことでした。

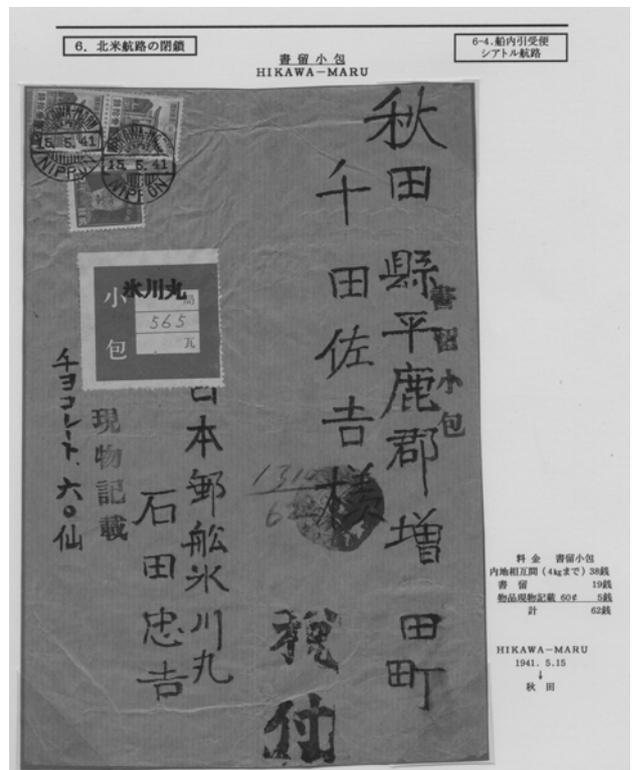
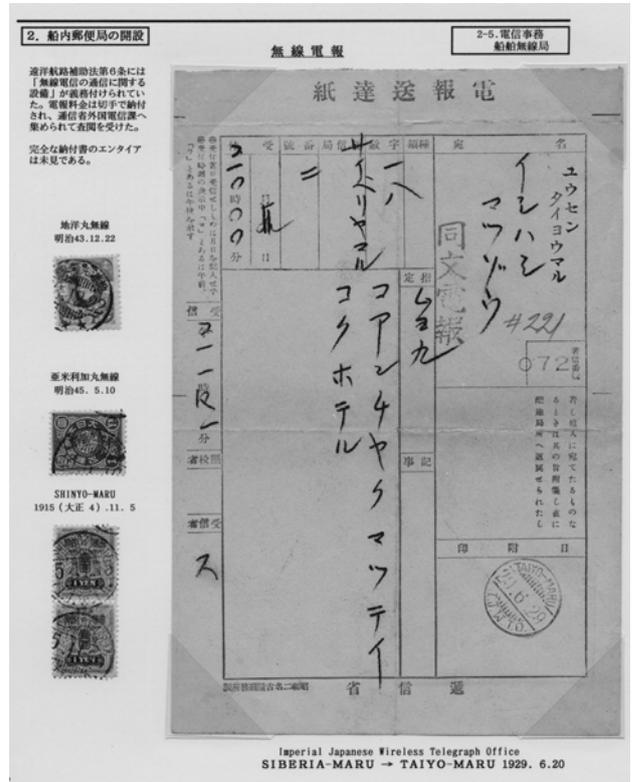
1896年(明治29)年、日本郵船がシアトル航路を、そして1898年には東洋汽船がサンフランシスコ航路を開設しました。両航路は国の積極的な助成を受けて維持されていきます。その後、日露戦争を経て日本の国力が増大し、1910(明治43)年、国際郵便の増加に対応するため、北米航路の就航船内に船内郵便局が開設されました。

船内郵便局は地上にある静止局とは違い、国際郵便の移動交換局で、横浜～北米間の航海中に限り開局していました。船客への切手の売り捌きや郵便物の引受のほか、為替・貯金・電報も扱う無集配二等局の役目もありました。

このコレクションは、北米航路に開設された日本の船内郵便局の歴史を以下の時期ごとにまとめています。

- 第1部 前史・太平洋を超えて
- 第2部 船内郵便局の開設
- 第3部 第一次世界大戦期
- 第4部 大戦後の停滞と回復
- 第5部 北米航路の最盛期
- 第6部 北米航路の閉鎖

本コレクションでは、郵便物の使用例をできるだけ集め、そこから得られたデータとともに、郵便通送に活躍していた船内郵便局の活動を明らかにするよう努めました。



上段：無線電報 下段：書留小包

## 戦後の外国航路船内郵便局 小坂彰宏コレクション

政府は戦後の人口増加に対処するため、国策として南米移民を押し進めました。1956(昭和31)年から1961年が移民数のピークで、移民への資金援助のほか、南米航路維持のための助成も行いました。大阪商船は当初5隻体制で南米航路を運営していましたが、国内の高度経済成長とブラジルのインフレにより、急速に移民数が減少していきました。そのため就航船を移民船から客船へと改装し、南米航路の運航を続けました。

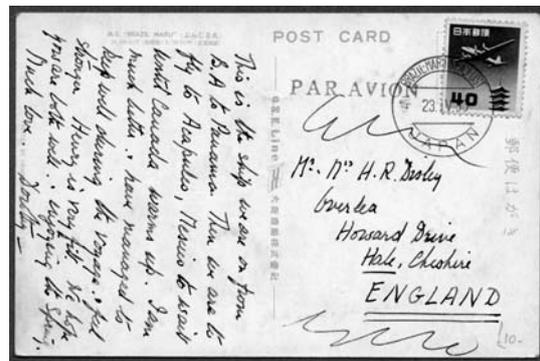
戦後の外国航路船内郵便局が開設されたのは、南米航路の「ぶらじる丸」「あるぜんちな丸」「さんとす丸」の3隻でした。

この展示では戦後の南米航路船内郵便局の活動を以下の3期にまとめました。

- 第1期・船内郵便局の開設
- 第2期・移民船から客船へ
- 第3期・「青年の船」

ぶらじる丸の船内郵便局で引き受けられた絵はがき(イギリス宛て 1960年)

ブエノスアイレスからパナマへ航行中に差し出され、寄港地のロサンゼルスで陸揚げされた。航空料金分の切手が貼られていて、アメリカーイギリス間は航空郵便で運ばれている。 \*50%縮小



## 船旅の想いを送る 小坂彰宏コレクション

乗船客が船内郵便局に差し出した郵便物には、旅の思い出を綴ったものが多く見られます。ここでは、観光地の風景や船の絵はがき、絵入り封筒などで差し出された郵便物を中心に紹介しています。

日枝丸の船内郵便局が取り扱った郵便物(日本宛て 1937年) \*50%縮小



## 1843年英仏郵便交換条約による外国郵便

1 スエズ以東 (3)モーリシャス (4)インド (5)オセアニア、その他の地域

村岡安廣コレクション

郵便は、国や人種を超えた信頼と協力によって成り立っています。近代において、外国とのコミュニケーション手段は、郵便が主たるものでした。特に、諸外国間の郵便物を早く確実に相手に届けるために、その輸送手段として船が利用され、航路の整備と充実が図られました。これは、日本に限ったことではありません。船舶の発達や航路の開発とともに、国際間の郵便法が練られ、郵便システムが拡充していったのです。

本コレクションでは英仏条約による郵便を、時代順に経路(船舶)、料金、各種表示の記録と併せて示しました。航路の整備充実により迅速かつ低廉に郵便が通送され、近代社会の発展に大きく寄与したことへの理解の一助となることを目的としています。

1843年に英仏郵便交換条約が締結され、近代郵便の基礎が築かれました。その影響は遠くスエズ以東、そして極東にも及び、まず英国に割譲された香港で、この条約によって郵便が通送されました。1860年の条約改訂では、開国直後の日本にも適用されます。生糸輸出が主要を占めた日本発仏国宛郵便にとって、大きな恩恵となりました。

1843年の英仏郵便交換条約は度々改訂追加されましたが、この日本に関係する改訂は1860年5月の追加条項でした。日本を含む極東からのフランス宛ての郵便のうち、英国局扱いで英国郵船利用の着払便(一部例外有)については、英仏交換印が香港にて押印されることとなったのです。エジプトのスエズを通過してマルセイユ港に上陸する、インド洋地域及び極東オセア

ニアよりのフランス宛着払便は、英仏交換印がインドのマドラス、カルカッタ、ボンベイ、インド洋上のモーリシャス、豪州メルボルン、香港等の各地で押印されました。インド、香港では条約廃止の1875年迄使用されましたが、スエズ以東の他の地域では、1870年前後には郵便切手が普及したため、次第に姿を消していきました。展示は、スエズ以東のうちモーリシャス、インド、オセアニア、その他の地域における英仏条約による郵便の変遷を示すものです。



インドのマドラスからフランスのボルドーに、イギリスの郵便船で運ばれた郵便物(1861年)。イギリスとフランスの郵便交換制度で決められた印が押され、実際の送料15サンチームが着払いで支払われている。 \*50%縮小

※全国切手展<J A P E X' 07>(11/2～4)の池袋会場では、UPU加盟130年記念「外国郵便展」において、『1843年英仏郵便交換条約による外国郵便 1 スエズ以東 (1)日本(2)その他の極東』を展示しています。

## スウェーデン周辺の船舶郵便

志垣雅文コレクション

スカンジナビア半島に位置するスウェーデンは周りをバルチック海に囲まれ、諸外国との郵便授受はほとんどが船で行われていました。特に19世紀以降、蒸気船の登場により多くの郵便通送路が開かれてきました。これらの各郵便通送路ではそれぞれ特徴的な郵便印等が使用されたし、また時代の変遷により通送路が変化していきました。

このコレクションはこれらの船で運搬されたと分かるマテリアルを郵便通送路毎に分類し、まとめたものです。

以下に、このコレクションを理解する上で最低限必要な事を記載します。

### <北欧近代小史>

スウェーデンとデンマークは、実は仲が悪いのでした。有史以来(およそ1000年頃)100年以上戦争状態にあり、不倶戴天の敵同士です。

### <スウェーデンとフィンランド>

1809年に支配していたフィンランドを、スウェーデンはロシアに取られ、1812年、首都はスウェーデンに近いオーボ(フィンランド語でトルク)から、ロシアに近いヘルシングフォルス(フィンランド語でヘルシンキ)に移されました。日本で言うと「京都」から「東京」に首都が移転したのに例えられます。

### <スウェーデンとノルウェー>

フィンランドを取られたスウェーデンは、これを取り返すべく、ナポレオンの高官ベルナドット(現王室の祖)を国王に迎えました。そしてスウェーデンは、フィンランドの代わりとして、ナポレオンに敵対したデンマークから、1814年にノルウェーを取りました。このため、スウェーデン国王がノルウェー切手に登場することになりました。



ノルウェー切手に登場するスウェーデン国王オスカー1世

### <地理的形狀>

スウェーデンは、ノルウェーと陸続きですが、その他の国とコンタクトするためには海を越えなくてはなりません、日本と同じです。

### <スウェーデン語>

地名で良く見かける名称は、大体次の様な意味です。△△HOLM; △△城 例…STOCKHOLM(ストック城)、△△STAD; △△町(都市) 例…CARLSTAD(国王カールの町)、△△HAMN; △△港 例…KÖPENHAMN(コペンの港)。



蒸気船アウラ号が運んだ、スウェーデンからフィンランド宛ての郵便物(1868年「オーボ経由アウラ号にて」の注意書きあり)。スウェーデンの紋章図案切手が、フィンランドの都市オーボで消印されている唯一の例。\*50%縮小

◎展示ケースA～B

日本郵船の客船で用いられた食器類 秋吉誠二郎コレクション

1930年代(昭和初期)、日本郵船の浅間丸や氷川丸をはじめとした外国航路の客船は、最先端の室内装飾が施された、洋上の最高級ホテルでした。そして、ここで供される料理は、食通たちを唸らせたそうです。今回展示の食器類は、

この日本郵船の豪華客船で使用されたものです。食器の他に、朝食、昼食、夕食のメニューも紹介します。また、パッセンジャーリスト(乗客名簿)、パンフレット、荷札、乗船記念のペーパーウェイトや絵皿もあります。



上段左：銀製コーヒーポット(長さ20cm×幅12cm×高さ13cm)

上段右：銀製ティーポット(長さ22cm×幅11cm×高さ21cm)

下段左：秩父丸のパンフレット(縦18.7cm×横9.6cm)

下段中：秩父丸のパッセンジャーリスト(縦22.3cm×横16.8cm)

下段右：秩父丸を描いた日本郵船50周年記念の絵皿(NORITAKE製 直径25cm)

◎展示ケースC

# 浅間丸に乗船の外国人による旅のスクラップブック

小坂彰宏コレクション

1930(昭和5)年5月28日にロサンゼルスを出港した浅間丸で来日し、京都、奈良などを観光したアメリカ人家族の旅の思い出が綴られています。入出港の際の紙テープやその風景写真(図1)、乗船客用の日本郵船の英字新聞(図2)なども貼り込まれています。

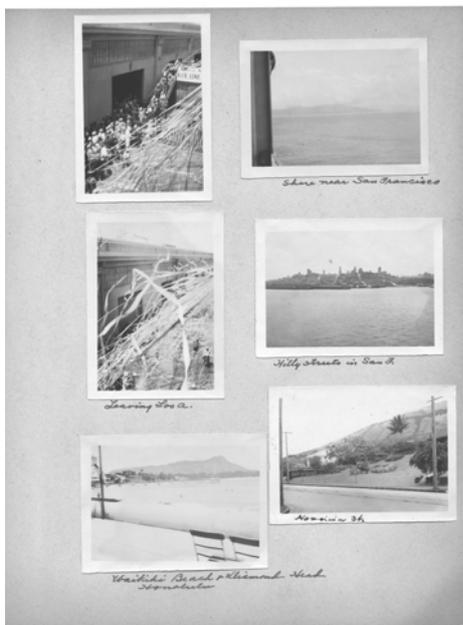


図1

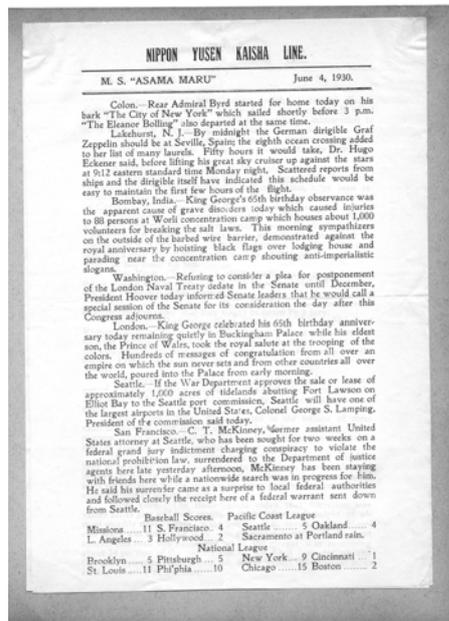


図2

◎展示ケースD

# 郵便物を運んだ青函連絡船 羊蹄丸の航海日誌

船の科学館所蔵

青函連絡船は、1908(明治41)年の運行当初から郵便物の輸送に用いられていました。鉄道郵便車を乗せて、青森と函館を往復していたのです。鉄道郵便線路名は青森函館線で、1986(昭和61)年10月1日に廃止となりました。青函連絡船が廃止になるのは、青函トンネルが開通した1988(昭和63)年です。

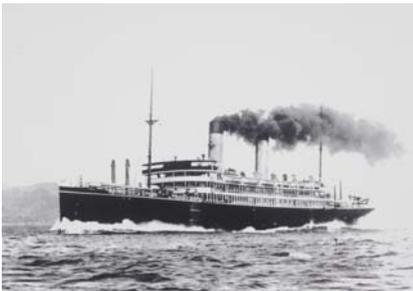
1965(昭和40)年に就航した羊蹄丸(ようていまる)は、現在、船の科学館で保存船として公開されています。



## 船内郵便局が開設された客船とその郵便局の写真

日本郵船歴史博物館所蔵

戦前日本の外国航路に就航していた豪華客船は、郵便物を運ぶとともに船内郵便局が開設され、乗客への切手類販売、郵便物引受、為替、貯金、電報などの業務をしていました。ここでは、その代表的な客船と郵便業務関係の写真を紹介しています。



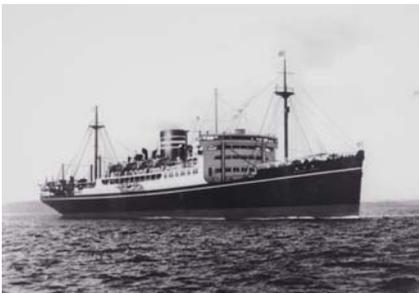
天洋丸(開局1910年 閉局1930年)



浅間丸(開局1929年 閉局1941年)



浅間丸郵便取扱窓口(エントランス)



氷川丸(開局1930年 閉局不明)



龍田丸(開局1930年 閉局不明)



新田丸(開局1940年 閉局不明)



氷川丸郵便ポスト(エントランス)



龍田丸郵便物荷役風景



新田丸郵便庫

船の郵便展

開催期間：2007年10月25日(木)～11月4日(日) \*10月29日(月)休館

開館時間：午前10時30分～午後5時(ただし11月2日・3日は午後6時まで)

会場：切手の博物館3階特別展示室 <スペース1・2>

観覧料：大人300円、小中学生150円、障害者無料

ギャラリートーク：11月3日、4日開催 両日ともに午後2時 会場にて

展示協力：秋吉誠二郎、小坂彰宏、志垣雅文、谷信勝、日本郵船歴史博物館、船の科学館、古家美和(企画コーディネーター)、村岡安廣、山口純一 \*五十音順 敬称略

◎本展および展示案内の制作は、日本財団の助成を受けています。

船の郵便展 展示案内

2007年10月25日 発行

発行者 財団法人 切手の博物館

171-0031 東京都豊島区目白1-4-23

電話 03-5951-3331